

## オンラインを活用した協定校との授業「ポーランド語能力国家検定試験B1レベル対策講座」をポーランドのグダンスク大学と実施

森田 耕司（大学院総合国際学研究院）

2021年2月1日（月）から5日（金）までの5日間にわたり「ポーランド語能力国家検定試験B1レベル対策講座」を世界教養プログラム・ポーランド語Ⅲの集中講義として、オンラインを活用した協定校からのリアルタイム配信により実施いたしました。

現在、コロナ禍でポーランドへの留学の道が断たれており、本学の学生が留学することによりポーランドの大学で直接教育を受ける機会が激減しております。そこで、ポーランド語能力国家検定試験の中で本学の学生が最も多く受験しているB1レベルの対策講座を、日本に居ながらにしてポーランドにある本学の協定校の一つであるグダンスク大学の教員からオンラインを活用することにより直接受講できる機会を設けました。時差の関係上、本学の5・6・7限目を活用することにより可能となりました。授業はグダンスク大学のイレナ・ハヴリルスカ先生とソニア・チャプレフスカ先生が担当いたしました。

授業ではポーランド語能力国家検定試験のB1レベルに合格するために必要な知識や能力を習得するため、過去に試験問題の作成経験を持つ先生方から集中的に指導を受けました。最終日には力試しに模擬試験も実施されました。コロナ禍の状況の中、ポーランドから密度の濃い15コマの授業をリアルタイムで受講することができ、学生たちの満足度も高かったようです。先生方も学生たちの熱意に感銘を受けたそうです。

なお、この授業は文部科学省スーパーグローバル大学創成支援補助金（Joint Education Program）の財政支援により実現が可能となりました。

### 【受講後の感想（アンケートから抜粋）】

今まで検定試験の形式に特化した授業を受けたことがなかったのでとても新鮮でした。特に作文や口頭試験に時間をとって練習できて良かったです。また他学年と同じ授業を取る機会もあまりなかったので、普段の授業とはまた違った気持ちで受けることができました（言語文化学部4年）。

---

コロナでポーランドに行けない中、日本では情報入手が困難なポーランド語の検定試験の内容や対策の仕方を知ることのできたとても貴重な機会でした。また、ポーランド語のB1レベルがどれくらいのものなのかが具体的に分かって良かったです。また、4技能全てにおいて、勉強するときに使える教科書だけでなく、YouTubeチャンネルなどの無料でアクセスできるWebサイトも紹介して頂けたのは有り難かったです（国際社会学部3年）

---

講義内容がスピーキング・リスニング・ライティング・リーディング・文法の五種類に分かれていたため、自分が苦手とする分野を知ることができました。文法問題は容易に感じるが多かった一方、リスニングとリーディングの問題を解くことに難儀しました。能力の偏りを自覚できたことは収穫だったと思います。また、実際の試験問題に近いものを授業中に解いたことで、自分が特に苦手とする問題形式を見つけることができました。上記のように、できる部分とできない部分の両方が程よく存在したため、B1は私にとって丁度いい難易度でした（言語文化学部2年）。

それぞれの試験で重要なポイントを詳しく説明してもらい、実際に作文を書いたり問題を解いたりしました。自分の語学レベルに対して授業のレベルは非常に高いと感じましたが、詳しい資料を用意していただいたり、作文の添削を丁寧にしていただいたりして、次のレベルへの準備ができました。今回学んだ単語や作文の書き方、口頭試験の受け方を来年の授業や実際に検定試験を受ける時に生かしたいと思います（国際社会学部2年）。

一言でいうと、とてもためになり、受講して良かったと心から思いました。B1の検定試験がどのようなものなのか分からなかったため、初めは不安でしたが、先生方がとても丁寧に教えてくださり、安心して受講でき、理解も深まりました。またレベルもちょうど良かったと思います。私にとってはレベルが少し上の授業ではありましたが、だからこそ高みを目指すことができ、ポーランド語学習への更なる意欲も得ることができました（国際社会学部2年）。

ポーランド語だけで進められる授業をこれほど集中して受けたことがなかったので、特に最初の1、2日はポーランド語の量に圧倒され続けていました。文法面ではなんとかついていけたとは思っていましたが、やはり自分の語彙が少ないので、問題を解くにも、説明を理解するにも、ちんぷんかんぷんになってしまうこともありました。だからこそ、B1レベルと自分のレベルの差がはっきり見えました。内容的には自分にとってはかなりハードでしたが、先生方がかなりサポートしてくださって、5日間なんとか乗り切れました。特にライティングやスピーキングの練習は直接先生方に見ていただけたので、いい機会になりました。1年生としては難しいと感じる内容ではありましたが、今後のポーランド語の学習へのモチベーションになりました（言語文化学部1年）。

The screenshot shows a Zoom meeting interface. On the left, a presentation slide titled "EGZAMIN CERTYFIKATOWY B1" is displayed. It contains a table with exam details and a list of exam components. On the right, a text box titled "Opis formy wypowiedzi" provides a definition and characteristics of a monologue.

EGZAMIN CERTYFIKATOWY B1	EGZAMIN (zaliczenie)	liczba zadań	liczba punktów
Wymowa i rozumienie	15	4-5	30
Wymowa i rozumienie (zaliczenie)	15	4-5	30
Przebieg i rozumienie	45	8	30
Przebieg	75	3	30
RAZEM:	180	10-15	120

  

EGZAMIN CERTYFIKATOWY B1	EGZAMIN (zaliczenie)	liczba zadań	liczba punktów
Monolog	40-45 min	1	60

**Opis formy wypowiedzi**

Monolog jest dłuższą (dłuższą niż kwestie w dialogu), ciągłą wypowiedzią jednej osoby dotyczącą określonego tematu czy zagadnienia. Monolog jest dzięki temu wypowiedzią samodzielną formalnie i znaczeniowo.

Osoba mówiąca przekazuje w monologu informacje o osobach, rzeczach i zdarzeniach, opisuje je i opowiada o nich. Wyraża także swoje opinie i poglądy. Narracja wskazuje na porządkowanie przekazywanych treści według przyjętego ogólnego planu, zawierającego informacje wstępne, wieloaspektowe rozwinięcie tematu i zakończenie.

Monolog jest wypowiedzią spójną, co oznacza powiązania logiczne i językowe między kolejnymi jej elementami, np. poszczególnymi zdaniem czy częściami tematycznymi.

Aby dobrze realizować zadania monologowe na egzaminie, należy umieć:

- rozpoczynać, rozwijać i kończyć (podsumowywać) wypowiedź na określony temat,
- opisywać osoby, rzeczy i sytuacje,
- opowiadać o wydarzeniach,
- wyrażać swoje opinie i poglądy.